

## くろまんぶとあかまんぶ

猪名川に沿って町の中央を走る県道川西―篠山線は、町の中心道です。古くから摂津と丹波を結ぶ道として利用され、人たちの暮らしを支えてきました。六瀬からも、米や炭などの産物が牛の背に積まれ、池田方面へ運ばれましたが、もともと細く、曲がりくねった道のうえ、途中に交通の難所がいくつかありました。なかでも林田と朽原地内には、けわしい丘陵が道をさえぎっており、旅人たちが難儀していました。

どちらもトンネルを抜こうという計画が持ちあがります。まず、林田地内の津坂道路を改修することになり、明治十四年（一七八二）、柏原村の福井伊之助が工費一千百七十五円三十銭で請負うことになりました。津坂とは、林田と木津を結ぶ坂のことで、現在の町道「木津林田線」にあたります。

山の中腹に岩盤を切り開いてトンネルを抜く。これは大事業でした。現在では危険防止のため、トンネル内部がコンクリートで固められみる事ができませんが、それまでは岩盤が固いので除去できなかったのか

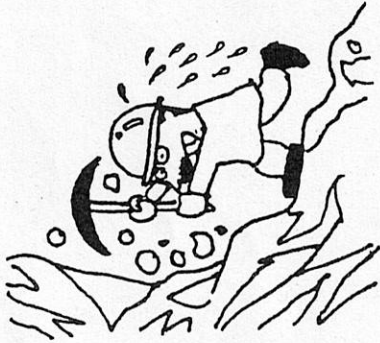
凸起する岩頭、あるいは軟岩の崩壊跡、岩肌からは水が滴り落ち難工事であった痕跡がそこかしこに残されていました。

血のにじむような苦勞の末、ようやく完成させたトンネルは、くろまんぶと呼ばれ、延長約九〇メートル、幅三・五メートル、高さ二・五メートル。請負った柏原村の人たちは、予想外に工費がかさみ、ほとんど困り抜いてしまうのですが、それでも責任感強く、兄弟はじめ親類縁者が協力、私財をすべてなげうつて事業を遂行したのでした。

明治の隠れた偉業といわれた「津坂トンネル」は、この人たちの血と汗で完成されたものであることを忘れてはなりません。

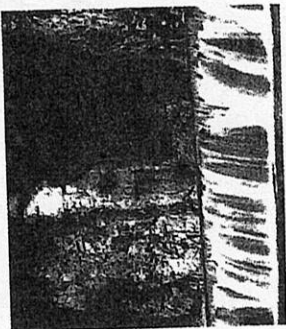
一方、いまはもうなくなっていますが、朽原のトンネルは、その跡のすぐそばに明治四十二年道路改修記念碑があり、そのころ改修されたようです。明治四十年（一九〇七）九月、篠山に歩兵第七十連隊の設置が正式に決定、これによって県道篠山伊丹線は、篠山と大阪第四師団とを結ぶ重要な軍用道路となりました。道路改修は急ピッチで進められ、朽原トンネルや屏風岩下の新道はこのとき整備されたようです。

このトンネルは、林田のくろまんぶに対して、朽原のあかまんぶと呼ばれていました。



### 交通の難所屏風岩

北摂の名勝として知られる屏風岩は、交通の難所だった。屏風岩前の猪名川に二つの橋が架かるまで、道は屏風岩の上を通っていたが、明治末年、屏風岩の下に岩壁に沿った新道ができた。この新道は、大水が出るとすぐ流されて、北摂バスは北田原から引き返すことが再三あったという。



屏風岩